

## 新ビジョン企画委員会 第2回会議 議事録

1 日 時：令和3年9月16日（木）17:00～19:00

2 場 所：兵庫県庁2号館 2階 参与員室

3 出席者

委 員：石川委員長、阿部委員、大平委員、織田澤委員、坂本委員、笹嶋委員、永田委員、中塚委員、野津委員、丸尾委員（以上10名）

県 側：坂本県参事、城谷ビジョン局長、木南ビジョン課長

4 内容

### （1）坂本参事挨拶

第1回の企画委員会から本日開催の企画委員会の中に知事が代わった。新体制になったことにより人事異動があり、8月16日付で県参事（ビジョン担当）に着任した。前職は阪神北県民局長であるが、2代前のビジョン局長、3代前のビジョン課長をしており、ビジョンを通算14年やっている。

この委員会では新しいビジョンの案を作ってくださいと予定だ。本日はビジョンの方向性を議論いただく。

ビジョンに対して私にも思いがある。頑張れない人、普通に生活している人を守っていくビジョンにしようという議論がかなりあったようだが、頑張っている人にもしっかり目配せし、頑張っている人も見守っているよというところを打ち出したい。地域で活動している方と話をしていると、県が関心を持ってきているということ自体が頑張るもとになるという話を聞く。なので、今回描く新しいビジョンでは、頑張る人たちに「見ているよ」というメッセージを伝えたい。20代の若者が県外に多数転出していることから考えても、若者に、兵庫県は面白いことをやっているな、チャレンジしてもいいんだな、と思わせるビジョンを入れたい。そういった観点で議論いただければと思う。

地域の人を見守ることと、頑張る人を応援することはベクトルが逆方向のようで、ピン트가合わなくなるかもしれないが、そういうビジョンをうまく表現したいという思いがある。先生方の忌憚のない意見を伺いながらビジョンをまとめてきたい。

### （2）城谷ビジョン局長挨拶

坂本参事と同じく8月16日付で異動になり、初めてビジョンを担当することになった。事業を含め政策部門は久しぶりに担当する。管理部門が長かったため、ここにいるメンバーとは違った目線からビジョンに携わろうと考えている。ただ、初めてのことであるため、先生方からのご意見ご指導を賜りながら取り組んでいきたい。

### （3）事務局から本日の論点を説明（省略）

#### (4) 意見交換

##### 阿部委員

まず、いろいろな方の意見を聞いてよくまとめられたなと感じた。

全体としては戦後的な企業社会など、いわゆる戦後レジームからの脱却といった方向性が目指されている。雇用の流動性を高め、経済を活性化させて、元気な兵庫を作っていく方向性であり、若々しいビジョンになっているという印象を受けた。

一方、県民意識調査の結果を見ると、期待する地域社会の将来像として、73.6%、4人に3人の県民が「介護・福祉、医療の体制が充実している」を望んでいる。裏を返せば、戦後の分厚い中間層を支えていた企業が解体されることにより、企業頼みの福祉が衰退し、家族頼みの福祉になっていく。そのことを県民は心配しているのではないか。その部分は今後、行政が肩代わりしていく必要があるのだろう。

だからこそ経済の活性化が必要とも言えるわけだが、もう一つの新規採用職員の意見をまとめた資料で、試案の未来シナリオ「自由になる働き方」に関し、共感できる人が13票、共感できない人が15票となっているのが面白い。新しい働き方で生産性を上げていかないといけないという意見と、それによって失われていく部分もあることを懸念する意見と、意見がきれいに2つに割れている。さすがに優秀な方たちが多いなと感じた。

セーフティネットがしっかりしていないと思いついて飛ぶことはできないということは昔からよく言われている。若々しさを打ち出し、既成観念を打ち破るビジョンを示しつつ、一方で県民の不安な気持ちに寄り添い、最期まで安心して暮らしていける社会をつくるビジョンを示す。この両ウイングをバランスよく訴える必要がある。どちらかに偏ると間違ったメッセージが伝わってしまう。バランスが大事だと改めて感じた。

##### 織田澤委員

非常に丁寧にまとめられて素晴らしいというのが第一感。

この手のビジョンで大切なことは、上から与えられたものではなく、市民が策定のプロセスに参加できること、また参加したことが実感できるものであること。その意味で、ずっと取り組んでこられた県民との意見交換の成果が随所に織り込まれており、条件を満たしていると思った。県民の皆さんからどういう意見があったのかが、もう少し見える形になれば、なおよいのではないか。

2050年を予測するのは難しいので、将来構想研究会で議論したように、なりたい姿をイメージすることが大事だ。バックキャストイング、あるいはフューチャーデザインで地域の未来を考える、そうした取組を住民参加で進める自治体が出てきている。兵庫県でも、そうした取組を継続していくことが重要だと思う。

##### 坂本委員

示されたビジョンの内容は、県民の声を吸い上げてまとめられたもので、良いと思う。

今このビジョンは解決策が示されていない。いわば心臓が悪い、肝臓が悪いとわかった状況で、じゃあ実際どういう薬を入れたらよいのか。この議論をすることがこれから先重要だ。

県民意識調査からわかるのは、医療・介護、安全・安心のニーズが高いこと。県民が望むのは、健康寿命を伸ばしたい、高齢者・障がい者が暮らしやすい世の中にしたい、交通事故・犯罪が少ない街にしたい、働き方改革が進んで家族と楽しく過ごす時間を増やしたい、感染症や災害に強い街にしたい、といったこと。働き方などは、実際には昭和50年代から全然変わっていない。サービス残業、サービス出勤がいまだに実施されているというのが令和3年の民間企業の実態である。

ビジョンの実現のために、実際に何をやっていくか。技術的にもトレンド的にもDXが、その現実的な手段だと考える。実際DXを打ち込んでも、広がるのに10年、成熟するのに10年かかる。すぐにでもこれに取り掛かる必要がある。

前回の会議でもスピード感を持ってミニモデルから始めようと申し上げた。なぜスピードが大事か。計画を練るのに3年もかけていたら人が異動してしまうからだ。やろうと言いつつ出た人間がいるうちにさっさと始めないといけない。

今、世の中で実施されているDXは、運営側の自己満足のようなものが多く、津々浦々に届かない。子どもから高齢者、障がい者まで、誰も取りこぼさない、しかし、手厚くはない（手厚いサービスは導入のハードルを上げてしまう）DXをめざすべきだ。一つの課題に特化せず、いろんな課題に広く浅く貢献できるDX、つまり低コストのDXという意味でLite DXを提案したい。いわばお手軽DXだ。

具体的には靴の中にチップを入れて、県民の運動量を測る。取れるデータは歩数だが、受信機が街中にあると、今どこにいるか、どういう経路で移動したかなどもわかる。また、たかが歩数ではあるが、例えば、同じ距離を歩くのに時間がかかった日があれば今日は体調が悪いのではないかとといった推測も可能になる。

今このLite DXのスマールサイズ実証を、いろんな企業に参加を呼び掛けて三木市と神戸市で進めつつある。運動施設でのスポーツのスキル向上、地域DXということで住民の運動促進と医療費削減策の検討、福祉施設・観光施設では従業員の働き方改革、学校では部活動の安全強化のためにデータを取り、そのデータがどう活用できるのかを高校生がIT授業の中で研究するといった取組を進めている。

靴にチップを入れるのは住民や従業員の協力を得ることでできるが、受信機を増やすのが難しい。そこでタクシー会社に協力してもらって、タクシーに受信機を取り付けてもらうことで、それが動く受信機として働くという取組も進めている。

この取組に兵庫県が連携することで、一民間企業の取組から地域としての取組に発展させ、100年後にはLite DXが兵庫の産業になっている、といった形にしていきたい。

これは自治体にとってもメリットの大きい取組だ。県民の行動ログから、曜日や時刻に

よって変化するリアルな人口分布を把握することができる。例えば夜寝る場所としての住所をベースに避難所の配置を考えるだけでよいのか、といった課題が見えてくる。このようにデータ活用で新しい兵庫をつくっていく取組を進めたい。

願いは、県として、この取組を認めてほしいということ。協力企業を募る際、アシックスが単に商売でやっているのではないということをお知らせし、県の関わりが見えたら、さらに協力してくれる会社や地域が増えていくと思う。資金的な支援も含めて、今後協力をお願いしたい。

## 木南課長

この話は、県として受け止めさせていただく。関係課を集めてミーティングをさせていただきたい。そこで改めて話をうかがい、どんな関わりができるかを考えていきたい。

## 笹嶋委員

非常によくまとまっているというのが第一の感想である。

坂本委員からDXに関する提案があったが、私も企業のAI導入やDXの支援をしている。いろんな企業の方がDXに取り組まれていて、大学に相談に来られる。中小零細企業の方々にも、基本的なことからアドバイスを行っているが、多くの企業が、どんなことができるのか、何から始めたらよいのか、といったところから前に進めないでいる。

そうした技術的な部分に加えて、コストの問題も課題である。思い切って挑戦したいが、失敗を恐れて最初の一步が踏み出せない企業も多い。小さく始めていくことを推奨することも良いことであるが、併せて、リスクを取りやすい環境を作ることが大切である。

自身が以前ベンチャーをやっていたとき、国のベンチャー支援が、本当の支援になっていなくて困った。ベンチャーをサポートする資金にも関わらず、1/2や1/3の負担を求めるものが多い。ベンチャーはどこも開発資金がなくて困っているのだから、最初は全額支援してほしい。なるべく小さなリスクで、AI導入やDXを始められる流れを作れないか。

DXは待ったなしだという趣旨の県民意見もあったが、その下地を整えていかなければならない。大学の研究者や専門機関を気軽に活用して、多くの企業が最初の一步を踏み出している。更に行政の支援を受けながら、様々な企業がスモールスケールのDXを進めている。そうした未来になってほしいと思う。

そうならば、兵庫県はDXを真剣に進めている地域だということで、海外からも投資を呼び込める。海外を見てもDXで実際に成果を出している地域は限られている。投資家が見ているのは、成果よりも、真剣にやろうとしているかどうかである。多くの人がDXに取り組んでいる自治体だということがわかれば、多くの投資を呼び込めるのではないか。

## 永田委員

ビジョン課に大学に来てもらって出前講座をやってもらったが反響が大きかった。学生

たちが知らないことも多く、改めて地域について考える良い機会になった。それを大学のホームページに掲載したところ、県内大学の現職の先生方から問い合わせがあり出前講座を紹介したところである。将来について考えるという、そのこと自体が、そもそも地域社会を良くしていくことにつながっているのだと実感した。

参考資料5「県民モニター臨時アンケート調査」の結果が興味深い。試案の未来シナリオ16「最期まで安心して暮らせる社会」、15「楽しく子育てできる社会」の評価が高かったことは、自身の専門とも関わる分野であり、うれしく思った。

年代別の回答率を見ると、確かに60代～80代の回答率が高く、高齢者層の意見が主に反映されたものと思うが、20代～40代の回答を見ても、それなりに関心が高い。つまりビジョンを発信したり、地域のことを考えたりしていく際は、身近なシナリオから共有していくことが大事だと言えるのではないか。

参考資料3の若手職員の意見も大変面白い。自身が北播磨にいたので、「人口を増やすよりも人材を増やす」「ゆかりのない人が移住したくてもできない」といった意見は、かなりリアリティがある。「地域差がなくなる」という意見もあったが、兵庫県内は広い。五国の連携ということも踏まえても、ビジョンの発信に当たっては、このビジョンは、自分たちの暮らしがどうなっていくかの話なのだ、ということイメージさせることが大切になってくると言えるのではないか。

その上で言いたいのは、ビジョンの県民への浸透に際しては、既に社会のなかで進められている先駆的事例を見せていくことが大切だということだ。実際にこうした試みを行っている人たちがいることを見せて、県全体がそういう未来にシフトしていけると良いですねというメッセージを明確に打ち出せると、より伝わりやすくなると感じた。

## 中塚委員

非常によくできたビジョンだというのが率直な感想である。

坂本参事の挨拶で、「頑張っている人に光を当てるべき」という話があった。最初に阿部委員が言われたセーフティネットや、弱い立場の方をどう包摂するかといったことも大切で、それらをいかにバランス良く表現していくかが課題だと感じた。

将来構想研究会の中で、自身は弱い立場の方を大事にしましょうということを一貫して言い続けてきた。それは、頑張っている人に光が当たりすぎではないかという懸念からだったが、一方で、こうして見ると、頑張っている人への言及が足りないのではないかという風にも見えてくるので本当に難しい。そこは両輪としてうまく表現していくことが大事だと思う。しっかり両方に目配りしている兵庫県であってほしい。

骨子案の「めざす社会の姿」の柱の順番を変えてみるというのも一つの工夫である。経済や活力の部分の前に出すことで、メッセージの見え方が変わるかもしれない。

また、「実現に向けて」の基本姿勢に「ローカル志向」が出ているが、自身のスタンスとしてはうれしい反面、兵庫県としてこれでよいのかという声も想定される。内向き志向に

見えてしまうかもしれない。ローカルを志向することと、インターナショナルに世界にチャレンジしていくことの両方に目を向けていることが表せないか。

「動かす仕組み」の先導プロジェクトについて。こうしたビジョン自体が総花的になることはしようがない。だからこそ、実現に向けては、的を絞りながら、尖ったものを強調してやっていくという姿勢を示しておくことが大事ではないか。

「県民の学び」に記載されている「小さな単位の学習機会の充実」は大変重要だと思っている。今、市町がこうした事業に手が回らなくなってきていて、地域の中で学習機会がどんどん少なくなっている。お金があった時代は小さな学習機会に行政が投資できていたが、そうした事業がどんどん切られている。県の役割として、市町ができなくなってきた投資と、市町では抜け落ちる狭間の部分の両方に目を向けることが大事だ。

## 野津委員

皆さんが既におっしゃっていることと同感である。ここまでの資料のまとめ、大変な仕事だったと思うが、一つの県が出すメッセージとしては、非常に前衛的な内容で、踏み込んだものも多く、どれも実現すれば良いなと思う内容で、読んでいてワクワクした。大筋として、今の時代に合った、良い内容のビジョンに育ってきていると思っていて、ここまで作り込んでこられた皆さまに感謝を申し上げたい。

メッセージの内容の一つひとつには、私もとても共感しているという前提の上で、私からは骨子案のめぎす姿について、感じたことを3つお話しさせていただく。

一点目は、私が但馬にある芸術文化観光専門職大学で専門的に活動している領域の一つである移動と交通に関する項目についてである。骨子案10ページに「世界へ広がる交流」というチャプターがあって、そこにまとめられているが、これが「地域に息づく力強い経済」という項目の中の一つという位置づけでよいのかということが気になった。

というのも、めぎす姿の全体の論調の中で、仮想空間やオンラインの恩恵について丁寧に語られていて、そのことには私も共感している。特に、私のように但馬地方に拠点を持っていると、緊急事態宣言下で今日のような神戸の会議に出向くのは負荷が大きい。今日も5時ぎりぎりまで大学で講義をしていたので、オンラインを大いに活用することで、できることもたくさんあると改めて考えている。

一方で、仮想空間やオンラインの方向性へのメッセージに偏ってしまうと、兵庫県という行政単位の存在意義が薄れてしまうことについてビジョンの中でも自覚的であったほうがよいのではないか。五国の横断的なリアルな人と人との交流や関わりが続いてこそ、兵庫県として存続する意義を持つと私は思う。そのために先端技術やオンラインやバーチャルなモノも最大限活かしていく方向性でまとめるともっとよいのではないか。

というのも、これから人口減少時代で、かつ、どこでも自分らしく働ける時代というのをビジョンの中でも掲げているので、住む場所を自分で選ぶ権利がどんどん増えていく。ということは、今の仕事を続けながら兵庫県に住む必要がなくなる人が増えるということ

であり、その逆に、今の仕事を続けながら県外から兵庫県に移り住むことができる人も増えるということだ。今いらっしゃる兵庫県民の皆さんが、すべてがオンライン化できるような時代になっても、引き続き兵庫県に住み続けたいと思い、逆に、今県民でない人が兵庫県民になりたいと思うような地域をつくるという視点が要るのではないか。こういうビジョンが出ていて、多様性への寛容さと多彩な風土・文化を持った地域づくりが先進的に成功すれば、必ず外から人が集まってくるようになると私は思う。そういう選ばれる地域になる必要がある。そのために、移動や交流が大事だということが、すべてのめざす姿の根底に通底するテーマなのではないか。現状は最後に少し書かれている感じだが、一番根幹に関わってくるものだと思う。

このビジョンが対象にしている兵庫県民がいったい誰なのかということを一回どこかで定義するとすっきりするのではないか。今兵庫県民である人々、今住んでいる人たちが、より自分らしく兵庫県で暮らし続けられるということはもちろんのこと、この兵庫県のビジョンに共感し、新たに国内外の多様な地域から集まってくる方々を歓迎するという視点が明記されていると、よりよいビジョンになるのではないか。

二点目が骨子案全体を通じて感染症についての記述がない。人と人とのリアルな移動を奨励して、国内外の移動がさらに活発になった先には、次の感染症がやってくるということを考えた方がいい。コロナ禍が長く続いているが、次の危険なウイルスが出たときに、私たちがどのような生活をめざして適応していくのかという視点は、この骨子案でも出てくるような、二度と震災や水害を起こさない地域になるということと同等に重要な項目になってくるのではないか。地震は自然現象だが、震災になると災害になる。ウイルスも同じで、ウイルス自体は必ず出てくるので、その時に、私たちの生活が今回のように混乱しないようにするということが、地球温暖化と同様に兵庫県だけで考えて済む話ではないが、県としても考えを深めていくことが大切な領域だ。2021年以降に県民全体に向けて発信するメッセージとして、今後30年を見据えるビジョンの前提条件として、感染症のことがまったく登場しないのは不自然と感じた。最終的に県民の方々に向けて発信する前には、何らかの内容を付け加えた方がよいと思う。

三点目は、骨子案10ページの「自立した食の王国」について。私は農業に詳しくないので委員の皆さんに教えてもらいたいのだが、骨子案の全体の論調が個人を大切にして、例えば、スタートアップを支援して、誰もが起業でき個人で仕事ができるような、柔軟で多様な兵庫県をめざしているという論調だったが、この食の王国のところだけ経営の大規模化を大きく掲げていて、一貫性の面から違和感がある。農業について詳しくないので、農業はこうしないと生き残れない、個々が好きに農業をしてはだめだということが、もしかしたらあるのかもしれないが、その辺りを勉強できたらと思って、気になったことの三つ目に上げさせてもらった。

**丸尾委員**

他の委員も言われていたが、私もたくさんの意見をこれだけの言葉に集約するというのは大変な作業であつたらうと思ひながら資料を拝見した。

骨子案7ページの「②自由になる働き方」について、この内容を見ると、労働者が対象になっている。他のところは、対象者が広く子どもから高齢者までを含む形になっていることを考えると、ここだけ働き手に焦点が当たりすぎているのではないか。役割という用語も中に入っているので、例えば「自由になる働き方」を「自由になる働き方・役割」とすると、リタイアされた高齢者の方などが地域で持つ役割なども含むことができるのではないか。一緒にするのか、役割を別のところで独立させた方がいいのか悩むところだが、年代を広げて考える必要がある。県民の声を見ている、仕事をしていない人たち、仕事ができない人たちにも焦点が当たればという意見もあつたので、役割も働き方と同様に強調するような表現にした方がよいのではないか。

8ページの「⑦支え合い安心して暮らせる地域」が医療に偏っていると感じた。医療も介護も両方が必要な時代であり、医療にも限界があるため、県民の意見を踏まえても、介護を入れておいた方がよい。遠隔・在宅診療が普及することも大事だが、家族が介護をしなければいけないという考えを持っている方がまだまだ多いので、家族だけで抱え込むのではなく、地域全体で支えるというメッセージが入るとよいのではないか。

同じ⑦の二つ目の項目について、「高齢者を見守るネットワーク」と書かれているが、高齢者に限定しなくてもよいのではないか。例えば、障害者や子どもなど、地域住民全体を見守るネットワークがあつた方が、安心して暮らせることにつながると思う。高齢者だけにせず、広げて考える方がよい。

同じ8ページの「⑧居場所のある社会」の一つ目について、「緩やかに人とつながることができる居場所が地域にあり、世代を超えた交流が進んでいる。」と書かれているが、この世代も、もう少し広げて、最初に言われていた、人種、国籍、障害の有無などの垣根を越えた交流という意味合いが含まれるとよいと思う。

## 大平委員

骨子案は過不足のない、良い資料になっていると思う。参考資料も多様な層の方々の意見が集められており、我々が数年かけて議論してきたものと似通っているところもあって、我々の議論も特段外れたことを言っていたわけではないと感じた。一方で、若手の人の中には全然違う考え方をしている人もおり、新鮮な思いで拝見した。

その中で、気付いたことを3点ほど述べたい。

まず1点目として、メッセージのコンセプトワードである。「(1)めざす兵庫の姿」がメッセージとして伝えていく部分だと思うが、「希望の兵庫」という言葉について、希望というのはみんなで作っていくものだと思うので、少し引がかかった。その後にある「すべての人が希望を持って生きられる一人ひとりの可能性が広がる兵庫」という部分は、将来構想試案でも多くの未来シナリオを挙げており、多様な夢を持つことができることをここで



は希望という言葉で表現されているのだと思う。それがメッセージとして伝わるのが非常に重要である。ただ、「すべての人が希望を持って」というのは、共通の希望があるわけではなく、人それぞれに希望はバラバラでよいということを表していると思う。希望は人や地域がそれぞれ作っていくものである。だから、「希望の兵庫をめざしていこう」ではなく、「多様な希望があってよくて、みんなでそれをつくっていこう」というメッセージが伝わるような表現にした方がよいと思う。

それから、「(2) めざす社会の姿」を見ていると素晴らしい組み立てがされているが、「個人を大事にしよう」という点と合わせて、「地域でがんばっていこう」という地域色を出すことが重要なので、「地域」という用語をコンセプトワードの一つに上げられないか。「全ての人・地域が希望を持てる 地域と県民が主役としてつくっていく兵庫」といった表現になれば、多様な未来をすべての人と地域でつくっていこうというイメージが伝わるのではないか。

2つ目は「何が変わるのか」という話である。県民がビジョンを見たときに「何が変わるのか」「どんな風になるのか」という見方をするだろう。「前から言っていることと同じではないか」とならないようにしたい。

第2部「大潮流」は兵庫の個別の話というより、社会全体の流れや地球規模の話など、変わりゆく流れが記載されており、「我々はどう変えるのか」が述べられているのが第3部「めざす姿」になる。特に今回新しく追加された「県民の想い」という部分がキャッチコピーを含めて分かりやすく表現されている。「新しい発想を柔軟に取り込む」や「競争よりも共創」など、「これからの社会はこう見ていけばいいんだ」「こう変えていけばいいんだ」という、考え方を具体的にどう変えていけばよいのかが伝わるメッセージが書かれていて分かりやすかった。新ビジョンの方向性ともつながるところもあるので、この場所で整理されたのだと思うが、こういう社会を築くというめざす姿とはまた別に「こういう社会をめざすためにはこんな視点で普段から変えていこう」といった共通の価値観や指針が含まれていると思う。その意味で、「県民の想い」のこの部分は、めざす姿をどうしたら実現できるのかという次のステップの話として、「こんな風に我々の視点を変えていかないといけない」という実現に向けての視点のような形でも整理できると感じた。

少し書きぶりが弱いと感じたのは「分散型の地域構造」についてである。随所にその要素は含まれているが、コロナの影響もある中で、「集中ではなく分散」について、地域を大事にしていくという一つの大きなメッセージとして入れる方が、県民は「このように変わるのだな」と感じるのではないかな。

3つ目は「実現に向けて動かす仕組み」についてである。まず、ここで書かれている「基本姿勢」は、先ほどの「県民の想い」と被ってくるので、「このような視点で変えていこう」ということは、実現に向けての部分に書いていった方がよいのではないかと感じた。

また、私は阪神版の地域ビジョンの議論にも参加しているが、そこでは2050年の遠い将来に向けたステップを段階的に示すことができないか検討しており、その中で近い将来の

ことも議論している。こうした考え方を全県の方では入れないのか。地域版のビジョンと全県版のビジョンの実現をどのようにリンクさせていくのか。おそらく地域版も全県版の検討内容を踏まえた形で作成していると思うが、実現していく上では地域で取り組んでいかなければいけないこともあるので、地域版との棲み分けや書き分けが少し気になった。

## 石川委員長

今日のご欠席だが、松永委員からご意見をいただいているのでご紹介する。

## 木南課長

松永委員からメールで2点ご意見をいただいた。

1つ目は、5ページの「更新」という言葉について。「更新」ではなく「創造」の方がよいのではないか。「更新」はこれまでの価値観の上書きというニュアンスが先立つ。「昭和の時代に形作られた・・・」からはじまるよりも、ポストコロナの中で生まれつつある新しい社会課題を念頭に、これまでとは異なる新しい価値観を重視し、創造性を発揮できる地域社会にしていくなど、もう少し前向きなニュアンスで書けないか。

2点目は、3ページの「大潮流」について。将来構想試案をベースに「自然の脅威」と書かれていて「脅威」という言葉が目立つ。確かにそうだが、「自然との共生」「自然への理解」などの方が、人間が自然を理解し、エコロジカルなデモクラシーを築いていく必要性を訴えかける表現になる。「脅威」というと自然を遠ざけるイメージになる。ただ、災害に比重を置くと「脅威」という言葉になるということも理解する。また、自然の脅威の中に「資源の枯渇」の記述がないように思う。(3)として資源の枯渇を位置づけてはどうか。後ろの循環というキーワードにもつながる。

以上2点の意見をいただいた。

## 織田澤委員

前回の議論を思い浮かべながら考えていたが、兵庫とは何なのか、兵庫の価値や、その源泉はどこにあるのか、県民がそれらをどのように捉えているのか、という本質的な論点があって、その部分について、しっかりとした議論が必要と感じた。

## 石川委員長

次に農業の関係で、中塚委員にお願いします。

## 中塚委員

改めて見直すといろいろと言いたいことがある。まず「自立した食の王国」という言葉について、どこから自立するのかという点もあるが、「王国」という言葉が引っかかる。「御食国」からつながってきているのは承知していて、将来構想試案の「進化する御食国」は、

まだよかったが、それが「自立した食の王国」となると若干引っかかる。

それから以前話したことがあるが、農がもっと上に上がってこないのはよいのか、食だけでよいのか。食を支えるのが農ということはあるが、それでよいのかという点がある。

「食材を生み出し続ける社会」という表現があるが、農業は食材を生み出すロボットではない。ここで言う「自立」が自給的なことを言いたいのであれば「自給できる社会」とした方がよいだろうし、そこは検討してほしい。また「ブランド化」はまだよいが、「大規模化」や「産地化」は高付加価値化の一つの手法でしかないと思うので、少し違和感がある。大規模化・産地化していく農業も必要だし、土地利用型の農業も必要だろう。その一方で小規模で小さく光る農業もしっかり作っていくことが県全体の中では大事な視点である。その辺りを踏まえて書いてもらった方がよい。

もう1点、現在書かれていないことだが、最近国が有機農業の戦略（みどりの食料システム戦略）を打ち出しており、2050年までに化学農薬の使用量を今の50%にすると言っている中で、兵庫県はこの分野にどう対応するのか。環境創造型農業を先進的に進めている県なので、私は入れるべきと考える。その当りの強弱感を検討してほしい。

#### 石川委員長

農業は食を支えることが大きな役割として書かれているが、食を支えるというのは農業の役割の一つであって、他にも役割があると思う。

#### 中塚委員

おっしゃる通りで、その辺りのことは、8ページの「サステナブルな暮らし」の辺りで押さえているのかなと思って見ていたところである。

#### 石川委員長

農業は実は多様な役割を担っていて、そのワンノブゼムとして食料を作り出しているという面がある。農業はもう少し大きな位置付けで考えることが重要かと思う。

#### 中塚委員

神戸の力が強い兵庫県の中で、農業一色ではなかなか議論しにくいところだと思うが、他県に行くと県の施策の8割は農業・農村施策というところもある。兵庫県も面積的にはほとんどが農村地域であり、もう少し農業を強く打ち出してもよいのではないか。

#### 坂本委員

私自身は民間企業の人間なので企業のことについてお話しさせていただく。坂本参事が20代の転出者が多いという話をされた。私も学生と話をする機会があるが、「兵庫県で働きたくないか」と質問をしたところ、「いや別にそんなつもりはない」という。また、愛知の

企業に就職する学生2人に「なぜ愛知県なのか」と聞いたことがあるが、「いや、愛知に、ではなく、トヨタに行きたいだけです」と答えた。つまり大半の若者にとっては、「兵庫県が嫌い」「愛知県が好き」ではなく就職先と地域が紐づいていないだけのこと。私自身も彼らと同じ考え方だった。トヨタに行けなくても、子会社のデンソーに行ければ生活水準が高いと考える。その企業と地域がリンクしていない。

一方でリンクしている話もある。一昨日、滋賀県のある企業に、なぜ滋賀県に本社を置こうと思ったのかと聞いたときに、別に滋賀でなくてもよかったが、滋賀県は、競合相手が少なくて行政の助成金を取りやすいと話していた。ベンチャーにしてみれば自分たちにはお金がないので、支援してくれる地域なら、それが兵庫県だろうが、鳥取県だろうが行く。そういうことを一つひとつやっていくことが大事で、課題の把握だけでなく、解決するにはどういう手段をとるべきか、ということが次に見えていないとだめである。

また、最先端技術を入れても、それがその地域に就職したい理由にはならない。例えば5Gを持ってくれば、それだけで企業に人が集まるかというところまでちゃんと示してやらないと伝わらない。企業がその地域で留まるモチベーションは何なのかを考えることが重要。さっきの学生の話であれば、なぜトヨタグループに入りたいのかは、つぶれないからだ。安心して生活していけるということが一つ大きな鍵だと思う。だから兵庫県にそういったものがあるかどうかを考える必要がある。

トヨタグループの中で電球だけを作っている子会社もあり、トヨタに入ってそこで開発担当になる場合もあるが、その辺の中小企業に勤めるよりは給料がよい、というだけでそちらを選ぶ。これが学生のリアルな感覚だ。そうした現実を踏まえて、兵庫県から若者が出ていかない、兵庫県に企業が来たいと思える施策を考えた上で、その方向をビジョンに書き込む必要がある。

## 野津委員

今の話に付け加えて。私は但馬に今年開学した芸術文化観光専門職大学で教員をしている。1期生は兵庫県外から多く入学しており、8割が県外からの進学者なので全国から兵庫県を選んでくれた学生たちの集まりである。1回生しかいないので就職実績があるわけではないが、「卒業後にどういう進路を目指したいか」というアンケートを取ったところ、舞台芸術と観光を専門に教えている大学なので、パフォーマーとか観光・旅行関係に就きたい人たちが通常より多いが、民間企業と公務員と起業したいという希望がそれぞれ拮抗する結果となった。学生の希望は非常に多様化している。もちろん1/3程度の学生は今話にあったように民間企業に行きたいと考えている。どんな民間企業かというところに行きたいという希望は当然あるが、就職先を選ぶ基準は何かというアンケートの結果を見ると、「安定性・将来性・知名度」よりも「働きがい」や「働き方」が上位に来る

という結果もあり、新しい時代を反映しているアンケート結果だと思っていた。大学1年生なので希望だが、そういう希望をかなえられるような環境があれば、何かで縁があって全国から集まってきた兵庫県内に住んでいる若者たちが「じゃあ兵庫県で起業してみよう」「フリーランスでこういう仕事を頑張ってみよう」「自治体の制度を使って地域に残ってこういうことを頑張ってみよう」といったことを考え出すのではないか。

若い世代は家族などのしがらみから自由な方が多い。20代で卒業して自分のやりたいものがあるところに行く。または安定して稼げるところに行く。場所は兵庫県でもよいし、兵庫県でなくてもいいという学生が多いのは私も同感で、兵庫県でやりたいなど若者が思うような制度づくり、雰囲気づくりが多様な形で進んでいく必要がある。

## 石川委員長

皆さんから本当にいろんな意見をいただいた。阿部委員や中塚委員が言われたように、今後はバランス感覚が非常に問われる。私たち自身にもバランス感覚が求められている。

その意味で新しい介護や福祉の形の話もあったが、どんな形でみんなを支えていくのかについて、ドラスティックに変えていかなければならない時代になっているのではないか。国民皆保険や年金制度の維持など問題が多々ある中、県民の皆さんが安全安心なまちをどんな形で望んでいて、それを担保するためにどんな社会を考えていかなければならないのか。「更新」という言葉ではなく新しいものを「創造」という話もあったが、もう一回なぜ介護があるのか、福祉があるのかを、その意義も含めて新しく考えていくべき時代になってきているのではないか。

また、教育のことが気になっている。7ページに個性を伸ばす教育云々と書かれているが、県民の意見を見ても、教育について非常に熱く書かれている方が多い。その中で、子どもの個性を伸ばすであるとか、教育の自由度が高まる、それはある意味、素晴らしいことだが、バランスの観点で、権利と義務ではないが、自分の権利だけ主張して義務はもういいやといったことにならないか。今そのバランスが崩れてきていると感じている。

個性を伸ばすことや、自分らしく生きることも重要だが、それだけでよいのかという視点も持ちながら、教育、人材育成をやっていかないといけない。その意味で、特に教育の世界は、ドラスティックな変革を求められるのではないかと感じている。

また、「学ぶことを諦めることなく誰もが学びたいときに」と書かれているが、少し時代が違う感じがする。前向きに学ぶ機会、誰でもが学びにアクセスできる機会があることが大事で「学ぶことを諦める」という話ではもはやないと思う。

もう一つ「失敗に寛容な地域」について。笹島委員から中小企業が失敗を恐れてなかなかチャレンジできないという話があったが、やはり挑戦する地域であってほしい。そこで大事な「失敗に寛容な地域」をどう具体化していくかがあまり書かれていない。日本は失敗に不寛容な国だ。個人で何かやろうとすると、一回バツがついてしまったら、どこかに飛ばされるみたいなマインドが強い。失敗なんて何度でもあることで、そこからまた這

い上がってチャレンジできる。そういう意味で失敗に寛容な雰囲気をついに醸成していくか、支える体制をどう整えていくかが重要だと思う。その意味で、先ほどの教育と関わる場所だが、他者の受容、自分の権利だけ主張して相手は知らない、私は私、ではなく、他者をしっかり受容するような気持ちを醸成するところを大事にしてほしい。

働く場所に魅力を感じてそこに住むという転居要因が強くなっていくのではないかという話があったが、最近は教育が転居のキーワードになっていると聞いている。この学校に行きたいからその学区に住むなど、ミクロなところでそういうことが起こっている。オンラインでいろんな教育を受けられる環境になってきているが、大平委員からも地域の魅力をしっかり出さないといけないという話があったように、兵庫県に住めばこんな教育を受けられる、こんな人材が育つということの一つの魅力にして、しっかり発信していくべきではないか。地域をアピールする要素の一つとして教育を位置付け、そのビジョンを示すことで、住む場所の選択肢として兵庫県が入る状況を作っていく必要がある。

### 坂本参事

今日は貴重なご意見をたくさんいただいた。なかなか大変な修正になると思うが、バランスよく取り上げてうまく反映させていただきたい。お褒めの言葉、うまくまとまっているというお言葉を多数いただいたが、逆に言うと「ぐっと刺さるものがない」というお言葉でもあろうと反省している。バランスよくかつキーワードが刺さる形の表現にできる限りしていきたいので、これからもどうぞよろしく願います。

(以上)